

本号では、少なくとも長径×短径が5 cm×5 cm以上の表層拡大型(表拡型)早期胃癌を材料にして検討することを企画した。水平方向に浸潤する癌の特徴を浮き彫りにしようと、各筆者がそれぞれ解析に工夫している点を読み比べていただきたい。

表拡型には2つの視点があるだろう。1つは、多中心性発生かどうかである。辻(大阪府立成人病センター)は病理組織学的検討から胃型の癌が周囲の粘膜環境のもとで拡がったとしたが、森田(癌研)はsm癌の大きさ別の比率や形態から多中心性発生を支持している。今後、この点に焦点を置いた研究(apoptosis, ploidy patternなどの面も含めて)が必要と考えられる。2つめは表拡型

早期胃癌が進行するとどうなるのかである。後藤田(国立がんセンター中央病院)の検討では進行癌との統計的比較で明らかな形態像を認めなかったが、杉山(藤田保健衛生大)が示した主題症例はそのヒントを示すものかもしれない。

一方、臨床のX線や内視鏡診断の面では何を視点とするのか。表拡型を見つけたとき、何が重要で、どのような点を確実に診断していく必要があるのか。本号を熟読すれば、検査にメリハリをつけられるだろう。

近年、表拡型の頻度は減少傾向にある。早期発見が徹底したためか、背景粘膜が変化したためか。はたして21世紀に表拡型は存在し、臨床診断されるのだろうか。

胃と腸

5月号(第31巻・第6号) 予告

発売予定 5月25日
定 価 2,060円(税込)

主題／“食道 dysplasia”—経過観察例の検討

序 説	都立駒込病院・外科	吉 田 操
主 題	追跡例からみた食道異形成(dysplasia)—第33回食道色素研究会「食道 dysplasia(異形成)を考える」のまとめを中心に	大阪府立成人病センター・病理
症 例 検 討	経過を追跡できた食道 dysplasia 症例	新潟大・1病理
座 談 会	食道 dysplasia—今、どう考えるか	東海大・2外
早期胃癌研究会症例	特異な形態を呈した大腸の多発潰瘍の1例	北海道消化器科病院・内科
	結節集簇様を呈したS状結腸の原発性早期悪性リンパ腫の1例	札幌厚生病院・消内
症 例	胃小細胞癌の1例	大津赤十字病院・内科
	ヒートプローブによる治療が有効であった胃幽門前庭部毛細血管拡張症(watermelon stomach)の1例	北九州市立若松病院・内科
	特異な形態を呈し組織学的にpseudocarcinomatous invasionを伴った大腸腺腫内癌の1例	浜松医大・1外

胃 と 腸 (第31巻 第5号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1996年4月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1996年年ぎめ予約購読料28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎(03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎(03) 3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1996, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>
- 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。
(担当)小松原・湯原・榎兼・江口・長谷川